

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI船橋教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	就学に向けた学校体育の経験がより多く出来ている。	保護者からのニーズに応えられるように支援を行っている。	職員のスキルアップ
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	関わりを多く行えるようなプログラムの提供が少ない	支援の中で同年代との関わりが少なくなっている。 ゲーム性のある運動プログラムの提供時間や頻度が少ない。	子ども達同士の関わりが多く行えるような運動のプログラムを実施していく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI船橋教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 37

回収数 : 16

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15			1	少人数で活動するには十分確保されていると思います。	ありがとうございます。今後も運動スペースを生かした支援を行って参ります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16				1人1人に向き合っているのが適切だと思います。	引き続き職員の数を確保し、お子様の特性に合わせた支援を行って参ります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	3		1	とてもわかりやすい環境になっていると思います。	引き続き安全な環境でお子様へ支援が行えるよう配慮して参ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	1		1	とても清潔で心地よいです。	ありがとうございます。今後も整理整頓や清潔さを心がけ、安心して楽しく過ごしていただける教室づくりを目指して参ります。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	2			特性に応じて楽しんで出来るように支援していると思います。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせて、楽しめる支援を行って参ります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16	1			合っていると思います。	ありがとうございます。今後も支援プログラムと支援内容に相違がないよう努めて参ります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15	1			ニーズを汲み取りながら、それに沿った支援計画を作成して下さっていると思います。	ありがとうございます。今後もお子様と保護者様のニーズに沿った支援計画の作成に努めて参ります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	1		4		
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	1	5	7		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	1	7		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	15			1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	2				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15			1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		3	2	11		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	3		2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13			3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	3		6		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	1		2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	2	1	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1		7		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13	2		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16					
	29	事業所の支援に満足していますか。	15	1				

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI船橋教室				公表日	2026年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	加配加算を採用しているため、常時指導員は3名以上の体制となっている。安全に配慮を行い、人員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		完全なバリアフリー化はなされておらず、室内のトイレ前には段差があるが、こうした個所では人的サポートを行うことで配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		清潔で利用者が心地よく過ごせることが出来るように、毎日清掃を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		運動スペースとは別に面談室が完備されており、必要に応じて個別で使用できる環境になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		毎日、始業時と終業時にミーティングを行い、共有事項に漏れがないように情報を共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		アンケートを渡している。保護者向けアンケートを12月に実施し、評価の悪い項目については、ミーティングを重ね、今後計画的に改善を図っていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日、ミーティングを行い、各職員が意見を出し合い、その都度、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		内部研修の他、外部研修にも参加し、全員周知・把握に努め、資質の底上げをはかり、療育支援に繋げている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		保護者に対して、必ずフィードバック時に当日行った支援プログラムをお伝えしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		面談やフィードバック時の聞き取り等を行い、ニーズや課題を客観的に分析した上で作成出来るように日々取り組んでいる。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		個別支援計画見直しの時期に、職員間でミーティングを実施し、支援計画の見直しと新たな目標を検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		新しい支援計画が出来上がった際には必ず全職員に共有を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		職員間でのミーティング等を定期的に行い、支援内容を検討して、児童一人ひとりのサービス計画に沿って、基本活動(自立支援・日常生活の充実のための活動等)を複数合わせて取り組んでいる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		児発管と指導員全員で話し合い、プログラムの立案を行っている。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		児発管と全指導員が話し合い、プログラムの立案を行っている。また、子どもの直近の様子なども考慮し立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		毎回の支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、希望に応じ学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を設け、一日の振り返りミーティングの中で、気付いた点や改善点を洗い出している。記録を必ず残し、休みのスタッフへも情報共有を図っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙（子どもの一言情報）にも記入し、検証している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、モニタリングをして計画の見直しの必要性を判断している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	1	3	現在はサービス担当者会議が行われていないため参加していないが、サービス担当者会議がある時は、児発管と現場のリーダーが参加する予定。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	3		今後必要に応じて検討を行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		4	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、今後、必要に応じ検討していきたい。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	3		今後必要に応じて検討を行っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		支援終了後に、必ずフィードバックを行い子ども様子を伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	2	ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスを行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		保護者との面談を行い、保護者や子どものニーズを確認し、支援計画の作成を行っている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	児発管が支援計画を作成・説明を行い同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	指導員や児発管が悩みを話せるように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングを行い回答するように心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	相談窓口を契約時に案内しているほか、対面・電話ともに随時相談の対応をしている。また内容により、日や場所を改めての相談支援なども実施している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	本部が管理しているSNSでイベントなどの報告を都度行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしているが、PC等からの個人情報へのアクセスについては、まだ不十分な面があるため、今後必要に応じ検討していきたい。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	場面や状況等に応じて言葉だけではなく、ジェスチャー等も活用しながら行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		現在特にしていないため、今後必要に応じて検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	左記マニュアル類はできており、保護者の目が届く位置（靴箱の上等）に置いて保護者へ周知はしているが、より周知徹底していく。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	年4回、地震や火事、水害、不審者を想定し、児童を交えて実施。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	契約面談時のフェイスシートと面談により確認している。変更があった場合は随時情報提供していただいている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	当事業所では食物の提供をしていないが、年に数回市販の菓子を配布することがあるため、契約時に保護者に確認し、お渡しの際も食物アレルギー等配慮事項がある児童は、保護者の確認のもと開封するよう指導している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	年4回、地震や火事、水害、不審者を想定した訓練を実施している。実施する際は開かず児童を交えて行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	契約時に緊急連絡先を聞き、緊急時には連絡が繋がるように周知を徹底している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	その都度記録し、全職員共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	定期的に事業所内で虐待防止の研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	身体拘束防止委員会を設け、身体拘束の定義や対応を職員間で確認している。保護者に説明し、支援計画においても記載している。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI船橋教室		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校の体育の授業で使用する器具を用いた運動のプログラムを提供出来ている。	鉄棒や跳び箱、縄跳びと言った学校体育の種目を中心に運動のプログラムを立てており、お客様の様子に合わせて種目の内容に違いを出している。	お客様1人1人に合った種目の選定を図り、自信を持って種目に取り組めるようにして行く。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放デイの利用者が多く、運動スペースが少なくなって来ている。	放デイの利用者が多くなって来ており、お客様の運動スペースが以前よりも限られて来てしまっている。	クラス編成に偏りがないようにする。器具の配置やプログラムを見直し、運動量を確保出来るようにする。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI船橋教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 47

回収数 : 17

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	2				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	14	1		2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15	2				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	3			当日行う予定のプログラムを事前に知らせて頂けると助かります。	利用前日にご利用案内のリマインドのご連絡と共にお伝えして行けるように努めて参ります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15	2				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	2				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	1		1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1		1	子どもが飽きないように工夫したプログラムを行っている。	ありがとうございます。今後「楽しい」を通してたくさんのお話を身につけてもらえる教室づくりを目指して参ります。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1	3	5	8		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	1		3		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13		1	3		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	15	2				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	1		2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15	2				
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	4	1	6			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15			2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12			5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15			2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	1		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17				過度に緊張したりすることなく安心して過ごさせています。	今後もお子様が安心して通所出来る環境作りを努めて参ります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16	1			様々なプログラミングを計画してくれており、楽しんで通所しています。	ありがとうございます。今後もお子様が楽しめるプログラムの立案を行って参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	1			今後も利用していきたいです。	ありがとうございます。今後もお子様と保護者様に満足してもらえる支援を行った参ります。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		TAKUMI船橋教室			公表日		2026年 2月 28日		
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。				
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	加配加算を採用しているため、常時指導員は3名以上の体制となっている。安全に配慮を行い、人員を配置している。					
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		完全なバリアフリー化はなされておらず、室内のトイレ前には段差があるが、こうした個所では人的サポートを行うことで配慮している。					
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		清潔で利用者が心地よく過ごせることが出来るように、毎日清掃を行っている。					
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		運動スペースとは別に面談室が完備されており、必要に応じて個別で使用できる環境になっている。					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		毎日、始業時と終業時にミーティングを行い、共有事項に漏れないように情報を共有している。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		アンケートを渡している。保護者向けアンケートを12月に実施し、評価の悪い項目については、ミーティングを重ね、今後計画的に改善を図っていく。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎日、ミーティングを行い、各職員が意見を出し合い、その都度、業務改善につなげている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		内部研修の他、外部研修にも参加し、全員周知・把握に努め、資質の底上げをはかり、療育支援に繋げている。				
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		保護者に対して、必ずフィードバック時に当日行った支援プログラムをお伝えしている。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		面談やフィードバック時の聞き取り等を行い、ニーズや課題を客観的に分析した上で作成が出来るように日々取り組んでいる。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		個別支援計画見直しの時期に、職員間でミーティングを実施し、支援計画の見直しと新たな目標を検討している。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		新しい支援計画が出来上がった際には必ず全職員に共有を行っている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		職員間でのミーティング等を定期的に行い、支援内容を検討して、児童一人ひとりのサービス計画に沿って、基本活動（自立支援・日常生活の充実のための活動等）を複数合わせて取り組んでいる。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		児発管と指導員全員で話し合い、プログラムの立案を行っている。				

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		児発管と全指導員が話し合い、プログラムの立案を行っている。また、子どもの直近の様子なども考慮し立案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		毎回の支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、希望に応じ学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を設け、一日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出している。記録を必ず残し、休みのスタッフへも情報共有を図っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙（子どもの一言情報）にも記入し、検証している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、モニタリングをして計画の見直しの必要性を判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		地域交流の機会の提供を組み込んだプログラムを検討していく。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		支援の中で子ども達に運動のメニューを決める時間を設けるなど工夫をしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	現在はサービス担当者会議が行われていないため参加していないが、サービス担当者会議がある時は、児発管と現場のリーダーが参加する予定。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	3		今後必要に応じて検討を行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4			支援終了後に、必ずフィードバックを行い、子ども様子を伝えている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1		ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、子ども対応について親へのアドバイスを行っている。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4			運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			保護者との面談を行い、保護者や子どものニーズを確認し、支援計画の作成を行っている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		児発管が支援計画を作成・説明を行い同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		指導員や児発管が悩みを話せるように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングを行い回答するように心がけている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		4		今後必要に応じて検討を行っていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談窓口を契約時に案内しているほか、対面・電話ともに随時相談の対応をしている。また内容により、日や場所を改めての相談支援なども実施している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		本部が管理しているSNSでイベントなどの報告を都度行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等は、シユレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしているが、PC等からの個人情報へのアクセスについては、まだ不十分な面があるため、今後必要に応じ検討していきたい。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		場面や状況等に応じて言葉だけではなく、ジェスチャー等も活用しながら行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		現在特にしていないため、今後必要に応じ、検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		左記マニュアル類はできており、保護者の目が届く位置（靴箱の上等）に置いて保護者へ周知はしているが、より周知徹底していく。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		年4回、地震や火事、水害、不審者を想定し、児童を交えて実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		契約面談時のフェイスシートと面談により確認している。変更があった場合は随時情報提供していただいている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	当事業所では食物の提供をしていないが、年に数回市販の菓子を配布することがあるため、契約時に保護者に確認し、お渡しの際も食物アレルギー等配慮事項がある児童は、保護者の確認のもと開封するよう指導している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		年4回、地震や火事、水害、不審者を想定した訓練を実施している。実施する際は開らず児童を交えて行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		契約時に緊急連絡先を聞き、緊急時には連絡が繋がるように周知を徹底している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		その都度記録し、全職員共有するとともに、今後の対応策を話し合い実践している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		定期的に事業所内で虐待防止の研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		身体拘束防止委員会を設け、身体拘束の定義や対応を職員間で確認している。保護者に説明し、支援計画においても記載している。		